





勝侯氏印

老境八友記

耳順三人謾書

是大雅堂
別号也

古歌子

老如色は友と八人求多う年々

よき事あり敬八上何ん下

第一

月言花下り了省了志取心

老境八友記

耳順三人謾書

是大雅堂
別号也

古歌子

老ぬ道は友と八人未多う年と
よききり敵は少川く下り

弟一

月香花下り有り志を忍ぶ
飲云と友
古語曰管食忘憂

弟二

痒者所人子搔せくらん後を
樂しき折くと友

弟三

老れ眠早く覺て古に兼玉所
人も知らぬ起すと做念といふや
睡魔に犯す夏は蠅や蚊の古き所
冬は火爐に坐る味と友

弟四

穢し心末の汁は弟の居間
小座の掃除と友

冬に火爐に坐して時を交

第 四

福に福来の計れ兼に居間 兼一

小庭の掃除と交

第 五

林に樂しむるを志し 峰に妻を

麻踏すは歩お意れあ 如年の事と

山水の景色見んはと交

第 六

吉田の好傍部のく年をそく 獨燈に

ゆると文とを廣きと見ぬ世の人と交

實小のくちくをむしとをれと交

婦をく 我好む方の産をたす先

かの客入来はあの子をたす先

兼とそくおるは 海客あは 性

諸にも樂しむ 拓くすに我の等

老年も似き 座席に押すけ 祿とす

吾れはとと戴きとく 吾れはとと戴き

無とをを 一燈のくはとと戴き

是とく人耳を樂せ 吾れはとと戴き

耻也との年をり

第 七

持佛をよむの香華を備へ 作とを

公王の春の節に 祿名題目式を禱

持佛堂より向公香華を傳へ作と書
公至乳養の節り称名題目式坐禪
誦經意くくへんちやして談義佛法確固
と書

行住在外念佛題目津西く救珠と
友

右條に八の友に文述はそれ一た外は
了くともく乳養市山林掃蓋の志は
たのつふに只存余の暇は日とたの
其老に及ひては無宗既三喜よ定を戒
得たありの聖徳と懐けり外に弟自性
強りよく凡そ先臨を遂に殺すはくし
中一養世にす入一一定賢鳴呼

為れ所の歌

河園より文を存は遠く奉り老ととぬ人引れ

古句

菟柳をこそむむくは清き水に

又

果は皆佛はれはるはる可也



行住在外念佛題目津西の救珠

右條の八の友の文をこれにたか
つてくもろく終り市山林掃蓋の志
たのつてこれに只存余の暇の日
其老に及んで血未既に喜ぶ
得てありの而を悟り外に
残りゆく此を先臨を送り
中一巻北にす入一穴

為れらの歌

河國より文を存し遠く
古句

竟極をこそむむく口
又

果に皆佛に成るる事

